琉球大学学術リポジトリ

施肥量および栽植密度の異なる条件下におけるゲットウの生育特性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村山, 盛一, 米盛, 重保, 大屋, 睦子, 比嘉, 奈央子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016770

3．施肥量および栽植密度の異なる条件下におけるゲットウの生育特性

琉球大学農学部　　○村山盛一・米盛重保・大屋睦子
（有）インテックス　　比嘉奈央子

ゲットウ（Alpinia speciosa K.schum）は九州南端の佐多岬から沖縄、台湾、中国南部、インド、マレーシア等に分布する多年生の常緑草本である。茎は密に束生し、高さ2～3mに達する。葉は長楕円形で長さ 40～70 cm 、幅5～9 cm になる。方言名はサンニンと呼ばれ、芳香を有し、沖縄では昔から葉を鬼餅（ムーチー）の包装用やサトウキビ収穫時の結束に利用されてきた。

最近、その茎から良質の和紙を作る技術が開発され、また、葉から抽出される精油成分は虫に対する忌避効果があり、企業化が図られつつある。

しかし、ゲットウはこれまで栽培植物ではなかったために、栽培に関する研究は全くなされていない。そこで、本研究では、施肥量および栽植密度の異なる条件下でゲットウを栽培して、栽培植物としての特性および土地生産性について検討した。現在までに得られた結果（生育途中）は次の通りである。

1．肥料反応試験の結果、茎および葉の収量は少肥区より多肥区で高くなったが、乾物率は逆に少肥区が高くなる傾向を示した。

2．栽植密度試験の結果では、初期生育が遅いため栽植密度の違いによる生育、収量の差は植付後 214 日目の調査では見られなかった。

3．植え付け後3年株の生育、収量調査の結果、草高 187.4 cm 、茎長 167.3 cm 、茎径 1.59 c 、茎数 24.3 本／株の値が得られた。収量は生重で茎 7,352 kg / 10 a 、葉 2,033 kg / 10 a の高い値が得られ、乾物重も茎で 1,027 kg / 10 a 、葉で 503 kg / 10 a の値を示した。